

徹底した農作業の省力化の取組

組織名	農事組合法人米コメ営農組合（代表：後藤 通孝）	農業地域類型	平地農業地域
経営理念	全員参加の集落営農を目指す	社員等	40名（うち役員9名）
経営面積	29.77ha（主食用米18.25ha、大豆10.92ha、大麦7.71ha）		



1. 法人設立や事業活用の経緯・概要

- ・平成7年8月に前身である任意組織を設立し、平成20年1月に農事組合法人米コメ営農組合として法人化。
- ・構成員の平均年齢は70代であるが、**若手の構成員（30代～）も所属しており、機械オペレーター等を担っている。**
- ・米、大豆、大麦を栽培している。中でも**大麦は富山県の平均収穫量をはるかに上回っており、県内トップクラスの収穫量**を誇る。
- ・米は「コシヒカリ」と富山県育成の早生品種「てんたかく」を栽培。
- ・作業には、出役して行う協業作業（従事分量配当）と構成員に委託する協定作業があり、協定作業は作業によって10aあたりの料金が異なる事業分量配当の形を取っている。（例：水管理は10aあたり10,000円）
- ・作業効率化のためのコンバインの導入に当たり、JAに活用できる事業を相談し、集落営農活性化プロジェクト事業の紹介を受け活用した。

2. 課題と対策

- ・**「人材の育成」**が最重要課題である。昨今の米価上昇により賃金を上げることができるようになったが、組織として今後も続けていくために、さらに高い水準に上げることを目指す。
- ・専従者を増やすために、**サラリーマン並みの年収（最低でも500～600万円）を支払えるように**し、将来的には若者が組織を継げるようにする。

3. 特徴的な取組や工夫していること

- ・令和5年度から、**通常より多くの播種を行う密苗に切り替えたこと**で、10aあたりに必要な苗箱の枚数が減り、省力化が大幅に進んだ。
- ・水田の四隅に苗を植えなくても収量に影響がないことを確認し、ほ場の大きさに関わらず、**四隅には苗を植えず補植も行わないことで収穫はすべて機械対応**できるようにし、収穫の際の手間を省いている。
- ・また、**事業を活用したコンバインの導入では小回りが利く軽い機種を選定することで、収穫の際に切り返す回数を減らし、効率化した。**
- ・これらの取組により、3年度目（令和6年度）実績で「農作業の省力化」の最終目標を大幅に達成した。
- ・**意欲のある若者の大型特殊免許取得のための費用を組合が全額補助し、将来のオペレーター候補を育成・確保している。**

農作業の省力化の実績及び目標

	R6目標	R6実績	R8目標
実績値及び目標値（時間）	9.6	8.6	9.3



事業で導入したコンバイン

4. 今後の目標

- ・10年後に向けた後継者育成の取組として、米価上昇を機に給与体制を見直し、**若者が農業に専従できる環境**を作り、繁忙期に構成員同士が協力して活動できるようにする。
- ・地域内の者の協力を得て、**「全員参加の集落営農」の実現**を目指す。



大豆の播種作業



格納庫